

通信

NO. 115
2022年8月号

ビジネス総研株式会社

福岡市博多区博多駅前4丁目
33番11-702号
☎092-409-4177

ちっご川・春Ⅱ 日洋展・九州熊本展



第36回日洋展に出品した「ちっご川・春Ⅱ」が九州熊本会場で展示されました。

=====

スタ
コラ

私的断捨離論 森本 信明

「断捨離」って何、自分にもできる術を考えてみました。

手前勝手な「断捨離論」で、自分で実践できるレベルの「断捨離術」です。

まずは「断」。

「安売りしているから」や「タ

イムセール中だから」という理由で、モノを購入してはいけません。本当に必要なものならば安売りしていなくても必要だし、セール中でなければ購入しないのならばそれはそんなに必要なものではない。

誘惑だらけの広告が蔓延しているので、すべての情報を遮断することはできませんが、負けないぞ、という気持ちが必要、でもたまに負けてしまうこともある。その時は、負けた事実を重く受け止め、次は負けないぞ、くらいの気持ちでいましょう。

次に「捨」。

不要なモノを「捨」のスキルは、一つは「不要なモノを見極める」、もう一つは「捨てることへの抵抗感との葛藤」。

私は、「放置した期間」で判断。一年間使わなかったモノは不用品の可能性が高いし、二年間未使用なら、この先使うことは本当にあるのか、と処分の対象にしています。

ただし、大工道具と書籍は捨てられません。「広辞苑」も「大辞林」もどちらも十年くらい開いてないのに捨てられません。

捨てることへの抵抗感との戦いは「慣れ」の問題かもしれません。

また、以前は、友人や親類に引き取ってもらったりしていましたが、自分が要らないものは多くの人も要らない。「使える使えない」という物差しは、「ゴミかそうでないか」という物差しとは別だと気づきました。

最後に「離」。

モノに執着しない「離」の本質は「変化」を「恐れない、受け入れる、楽しむ」姿勢が「離」だと考えます。

「こだわり」や「好きなモノ」や「快適さ」へのコダワリを断ち切る。でも簡単に手放すなんてできないので、たまあ〜に別の選択肢を採ること（＝変化すること）。なあ〜に、一度離れたって、またくっつけばイイじゃないか、と軽く考えています。

一般的に言われる断捨離の効果としては「価値観の構築・再認識」「お金が貯まる」「時間の節約」「ストレス軽減」「運気が上がる（風水的な意味で）」等が挙げられます。

「運気が上がる」以外はどれも納得。

でも私が一番に目指すのは「スッキリした〜！」という達成感を味わうことなので、日々、断捨離を実践すべきかどうか、悩ましい問題です。

*紙面の関係で一部編集・割愛しています＝編集部

=====

オクラの花が咲きました



オクラの花
が咲きました。

これは、いつも野菜を届けてくれる友人

が持ってきてくれた苗が、プランターで育ったもの。オクラがいくつ収穫できるか楽しみです。

Relationship & Partnership
B ビジネス 総研

<https://www.b-souken.com>



映画大好き
の山ちゃんが、毎回、
自分の言葉
で執筆しま
す。

はいほて



監督：五百旗頭幸男
砂沢 智史
声の出演：佐久田 脩
取材記者：18名
2020年 彩プロ

富山県の小さなテレビ局（チューリップTV）が、地方政治の不正に挑み、報道によって人の狡猾さと滑稽さを丸裸にした4年間を描いたドキュメンタリー映画。

映画は富山市議会（2016年5月）において、議員報酬額の10万円アップ（60万円→70万円）が提案されることから始まるのだが…。

このテレビ局は「正々報道」をキャッチフレーズに調査を開始、疑惑がある市議の不正を次々と暴いていく。

2020年1月1日現在の政務活動費の返還額

自民党会派 4.528万円

全会派合計 6.523万円

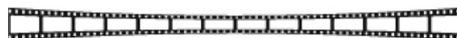
返還した市議のうち、辞職1人、引退1人、在職10人

起訴され有罪の判決を受けた市議3人。

今まで国会をはじめ、全国の地方議会において、数多くの不正や疑惑が明るみになったが、これらは「氷山の一角」に過ぎないのではと私は思う。

選挙が終われば、仮面が剥げた議員は、政治屋に変質し、国民は権利と監視を忘れていないのか。

報道機関には、チューリップTV局のように国民が納めた税金が、本当に国民の為に使われているのかの、徹底した監視と検証を望みたいものです。



くまさんの コンサル日誌



似顔絵作家の小西みどりさんに描いていただきました。

第2次岸田内閣発足 旧統一教会との関係は

参院選投票2日前に銃撃されなくなった安倍晋三元首相の事件が意外な波紋を広げている。

この事件とは直接関連がないと報じられているが、旧統一教会と政治家の関係が、次々に明らかになってきている。

この問題の本質は、旧統一教会が組織的に行ってきた靈感商法や多額の献金で多くの被害が

出るなど、旧統一教会の「反社会」性であると思う。

こうした「反社会的」組織と政治家が接点を持つなどあってはならない。

岸田首相は、第二次改造内閣の組閣にあたって、「自ら点検し厳正に見直すことが新閣僚や党役員的前提となる」と新閣僚の条件にしていたが、任命した後も関係が取りざたされる閣僚が相次いでいる。

さらに、この8月に「統一教会の信者の方にご支援、ご協力をいただくのは何の問題もない」とツイッターで公言しているS氏を総務大臣政務官に任命している。

これは、もはや、「厳正に見直す」どころか、組閣ができないほどのズブズブの関係であることを示している。

政治家が「反社」組織と関係を持ち続けるとは、言語道断。きちんとけじめをつけることが求められている。



編集後記

コロナ禍は収まらず、子どもたちの声も聞こえない夏休みとなっている。

暑い日も続き、いっそう健康に留意して過ごしたい。

Relationship & Partnership
ビジネス総研
ビジネス総研株式会社
福岡市博多区博多駅前4-33-11-702
☎092-409-4177 FAX092-409-4170
Eメール kuma@b-souken.com
<https://www.b-souken.com>